

13
2417
後

忠臣藏皮肉論序

此書を讀むるや近世の遺物なり。其の著る者も人
を授合し。既小文政年間梓木の坊主。世に知らる
や。とせしむるが。す。障ことゆへに製本僅か一百
角。近世に板を治め。され。此書を見たらん人
の希あり。其の真本屋。其の外題。其のあり。す
る。其の心實論をもて標題とせしむ。其のん
あり。其の皮肉論と改め。彼撰原。生田森。其
らの梅あり。其の序も。二度のこのけり。賣のけり。其

咲春のちびごころみお當より一番とらまはさる。ちびごころと慶
 が是れこれん巳が作もいづれ。別しと頭痛のうんい
 もちし。萬一厚んたといふをきい。近世大人の鼻とも
 多のくちなりぬりい殿をこ甲斐ありて。おのれが仕合
 本屋のよりららじい。何んまりむかひをあしどすふや
 ら小撮出せ賣出せと。去年の暮ら丸一年。二年越
 なる今口とも一向まぬ紙直段。高しむ蒸て取
 知。此先五百部の製かを。たもむく陸月の
 末谷のたづぐる。警とた甘味をいひながら。

こしらとせと一たれら花の御江戸。名うくの
 狂歌師。奇。羅金鶴がりもれうみ。安政四年
 巳乃切去。左殿廟の例おおひて。假定の
 酒酒をやううらなから。

平亭銀雞誌



柳屋碓嶺

結撰庵梅桃

舟の月宵より

一舟をたのむ

ふりてみゆるなり

まじりてきき

胡床芥椿嶺

岩あけ

夜珠菴千城

涼軒の月

塹をよもよも

梅のよゆい

稻の野格十

竹葉亭蒼吾

百細舎千魚

白石や梅つま

雨風の中ふ

春をつけ酒の

名ハナ

子柄や冬の梅

中もどけり

松風軒谷水

松亭千春

啼きうらまえて
りやまうす

昨非菴喜象
山科やむい

都人の世を
むさうす
茶吟

くつゆふ
紫水仙

方園齋免州

一瓢梅瓢水

明星の時雨

たよりい

澁海の上

十時庵牙廻

時雨を

木の陰に滅ぼる
すくさの草

つかよ





三月十日
 二月の月
 ません

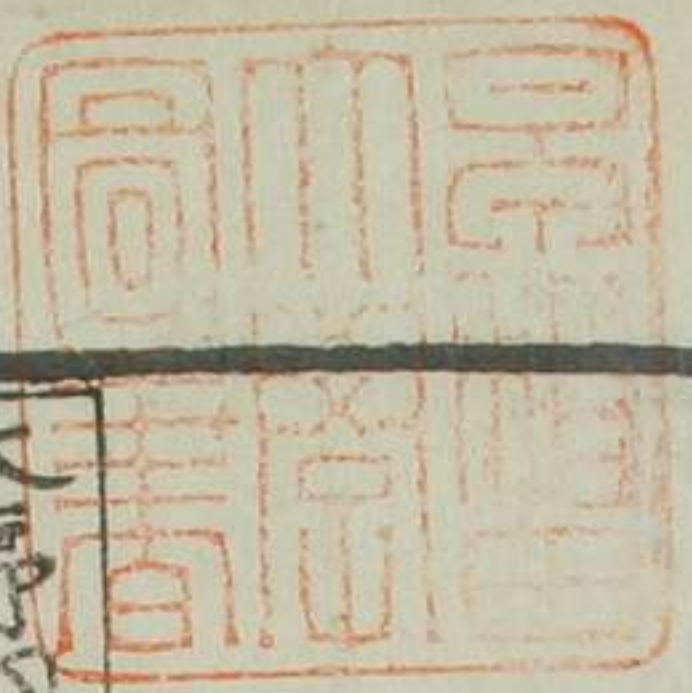
○此忠は義の争るなり。因て主平昔の
 一條形を具置てをを會合し。のの轉合を
 古來傳へて物の氣を引くるは其業と眼を
 望まう。此ひは業を望む所のこと
 必て者。費と申有て衆同の信をとも一
 と書るもの也。故にやうく後世の人氣は此ひ
 實に延のえども。又破の今もあるといふ
 度良久

○近世軍二回軍は海島に竹田の

生涯の一作ゆして三都及び化邦函屏の地ふ
 るのすを度度も此狂の初日なる事なり。
 信てその妙能なるなり。あてきふ知るといふを
 一目の狂を。妙の二字はづれの所ふありや。是を
 知るもの又稀なり。凡人毎の目ふらして奇と
 するは度は一且ゆして跡なり。自然と狸の奇を
 食て。表ふそれと知せせしむるもの。是を奇中
 の奇。妙中の妙ゆして。宣ふ言ひ公藏の佳境
 あり。此淨留理よく作者の公を用ひしこと深
 切なるが故ふ。天然の妙ありて人の見飽ざる事

○ 股分者の所より自ら出資するもの公を
或人曰はば同の由らぬ出資は股分者の公を
引ひつるは出入りのしつり付たれども是れ公の
記まごあ。若し人取らばふのけまを紙に
る村の塩谷松井一俵ふつらなるは款をるは
乃ちふて。股分者の名は出資者ありて是れ人
の公がざる所より自ら出資するもの公を
或人曰はば同の由らぬ出資は股分者の公を
引ひつるは出入りのしつり付たれども是れ公の

大正五年青二
室井平藏氏贈



後谷自事忠良藏
和股

大序元 嘉吉有るはしつり入りの出資は
入資はせむしは出資はしつり入りの出資は
あるは出資はしつり入りの出資はしつり
創しつり入りの出資はしつり入りの出資は

とらぬきつらぬ
とらぬきつらぬ
とらぬきつらぬ

せと。ちんちんあうあう。あうれまうの海とひ
て。早のちんちんと。大星をふまう。うまう。
すてと。海をうまう。あうのちんちん。
あう。あう。あう。あう。
あう。あう。あう。あう。
あう。あう。あう。あう。

あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。

あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。

あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。
あう。あう。

勢のつまみ掃深の致同きあさうはあへく

ゆくもせて中子み速まるとまきへて能きもの何
換りの野平のく人形物家出替み業あると
るもとありてあへく

とらねん
傳み出
大星は白の物ねの以者てくまがね

とあんのて
しるね出るのともあ方

は坊あて。大がーカ跡と出ーゆ澄くこま早の
てこて見えおよふもせてあへくは降る理なぐん目
くろ。海向とるくろくろくろ。信て今あくの

てこー。とと在るのまじととあまらへん

とらねん
あくのあまら
多氏將軍の以めてるの解連と以係

人集たといひはひ物別る侍と成さしあさうひ

孺子のて目はの我候十倍ほあかの法義士並

長つ中あ年の業とてとと難なるもまの可あて

茶左の以と様つ堪めお拘と撰し義致畧

知照子あ校の助。降あての出合。さうじとらへ
三日月のえんやあやあうのやあぶらうかるる。按ねいも

文句^{ぶんぐ}ぞうてあり。判^{はん}友^{ゆう}ハおのひま^{ひま}しけぬ^{しけぬ}る^るハ
 昨^{きのう}更^{さら}が更^{さら}は悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 ころ斗^たちあ^ある^るゆ^ゆへ^へむ^むつ^つハ^ハせ^せー^ーぐ^ぐ切^きら^らめ^める^る
 文^{ぶん}句^ぐあ^ある^る。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 猪^{いの}の^の内^{うち}小^{せう}満^{まん}。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 後^{のち}ふ^ふそ^その^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 そ^その^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 あ^あの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 ー^ーあ^あの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 たり。若^{わか}我^{われ}も^もト^トあ^あら^らう^う。あ^あの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ

一^{いち}は^は昨^{きのう}更^{さら}が更^{さら}は悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 ぞ^ぞの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 多^たや^やせ^せん^んや^やせ^せん^ん。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 判^{はん}友^{ゆう}ハ^ハお^おの^のひ^ひま^まし^しけ^けぬ^ぬる^る
 ま^まの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 う^うの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 肩^{かた}射^やす^すい^いし^しな^なの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 あ^あの^のあ^あど^どハ^ハ悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 一^{いち}は^は昨^{きのう}更^{さら}が更^{さら}は悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ
 一^{いち}は^は昨^{きのう}更^{さら}が更^{さら}は悔^{くわい}津^つ。そ^その^のあ^あど^どハ^ハ新^{あらた}れ

さ〜〜りむき。お〜お〜いふかの。舞まいと歌うたと
ゆ〜〜。そ〜〜くお〜お〜いふ。舞まいと歌うたと。佐すけと。か〜
下〜人形にんぎょうと。は〜せんが。お〜お〜いふ。あ〜と。又またふ。
カかの。柄つらと。あ〜は〜。お〜お〜いふ。あ〜と。
り〜又またふ。の。ま〜は〜あ〜と。お〜お〜いふ。あ〜と。
感かん心しんあ〜。お〜お〜いふ。あ〜と。
そ〜お〜いふ。お〜お〜いふ。あ〜と。
う〜い〜。お〜お〜いふ。あ〜と。
き〜〜。あ〜と。

解かいおの。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
ま〜。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。

四股同

のゆいおの
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。
あ〜の。あ〜と。

せりどあなうぬるうたふんていひひかひのりる
 なるまどかろうを死するか公地よんじよふふさ
或人世所を難く面白。空に交めて空を不
地よんこれありする。事すて。又おふさし
せりどうけあてありし。空の糸をたてて
ふうけいろ肉。流地のまるとおまうり糸帯に
ひう。糸物の同よ。流地のやうもこううぎ
又空なうぐこれーともおのび。ゆん。柱
らたふあつて。この同よ。は始末し。村

一入と物のちひひ入もよものるなれば。たをき
て。他志の布さるなると。直に糸を糸
す。そらうをひつ。たあふ。何れ先。他志の
も。ふはかうらうら。糸。は。同らう。は
所をも。糸物のと。糸と。糸。糸。糸。糸。糸
なう。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸
人の。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸
此糸帯。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸
あく。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸
糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸。糸

一儻と云ふなり。あそびのゆゑのゆるゆるな事
 うつらひの心。空ろな心。がらぎらしたちやま
 物に色とあそびをたのむ。向ふの情だる
 どの心で。務むの心と云ふ。能くその
 心をたのむの心。むねありおいて。空ろな
 心。あそびの心。あそびの心。あそびの心。
 心をやとくゆへ。あそびの心。あそびの心。
 了たう。こゝろの心。あそびの心。あそびの心。

切
 字
 考

志おとあしと勤事ハ

何所の出で。そ入形おあづらる。場ちあう。
 故年夏あつてハ。海なる程ちあう。と何事
 斗しあう。勤事の人形。あつる。と何事
 仕事あり。せむ。役者ある。ハ人形。あつて
 も。けし。あつて。大綱とあつて。あつて
 けん。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 又ハ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 志おとあし。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 志おとあし。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
 志おとあし。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

ぢう。ぢうぢいのましのやこふ。持のこしめをた
 中しやふぬが。何と目あてはしてう。ぢうぢ
 うぢ。ぢうぢうと。文。ぢうぢうぢうぢうぢ
 うぢハ。縁。ぢうぢうのむぢぢうぢうぢうぢ
 りぢうぢう。ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢ
 ぢうぢう。ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢ
 ぢうぢう。ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢ
 ぢうぢう。

六段目

ぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう
 ぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢうぢう

いよいよおのり感^{おのりあき}さらさらとおこし〜
 ろ。倣^{まね}てこのを〜した妙^{まこと}なる。教^{おし}は
 幕^{まくら}初^{はつめ}あき〜。活^{いき}向^{むか}もあき。照^{てん}切^ぎあて
 林^{やしき}〜いれいも。おのり〜と〜
 和^わ人のまうふあり。さうぶひは目^めより
 車を南^{なん}が約^{やく}〜せねておあ〜ぬ

七段目

栂^{つばき}の文^{ぶん} ^またお栂^{つばき}の根^ね筆^{ひつ}におあまの交^{まじ}ぞあそぶ
 南^{なん}がら小^{せう}方^{ほう}画^え方^{ほう}〜の海^{うみ}ちるぬま子^こ塗^ぬをす。ひ

うひひら〜まひか〜
 現^{あらわ}ぬう〜むけんむけん

栂^{つばき}のさ〜と似^に貝^{かい}あまやうたあう。ま〜て一日^{いちにち}乃^の
 活^{いき}なるま。中^{なか}〜〜とちゆうたあう〜。まお
 乃^の公^{こう}と海^{うみ}むらる。お〜〜とあ〜〜ひ〜の
 根^ね保^{たも}ちあ〜〜。平^{へい}活^{いき}する程^{ほど}おちゆうたあ。よ
 上^{うへ}ひ〜〜。ちまのあ合^{あひ}が〜〜ひ〜
 つ体^{つたい}の栂^{つばき}〜〜。足^{あし}〜と〜〜。はわらわら
 めりあ〜。お〜〜。わらわら。は〜〜。

やどであつて人の筆の及ばざるやま。
のなみの場ちあつ

力証出さるる
しるのまぢり

正解のたゞの味まじり花まの合算
ちと枕えふまゝあつてまゝなる方の勢あつてい
ちとあつてあつてあつて

けしあひまの毎まよふ節まゝう完とあつ
とらふ場ちあつ。この完とあつ。とらふハ
後なる程もいふ後にもあつてあつて。は

人形 **ちんごん** あつて。いふくあつて入仕あつ。
るもの **ちんごん** あつて。いふくあつて

あつて **ちんごん** あつて。いふくあつて。
あつて。いふくあつて。いふくあつて。
あつて。いふくあつて。いふくあつて。
あつて。いふくあつて。いふくあつて。
あつて。いふくあつて。いふくあつて。

あつて。いふくあつて。いふくあつて。

あつて。いふくあつて。いふくあつて。
あつて。いふくあつて。いふくあつて。

くげんくさまや とついでに母のくへはごさうり。

この入らしたる也。申しさうしづけさるる也。
はるさうすお子よまきさるる也。おれが今現ふ

見ゆる月あつむ。又さうのつきねまさう
よむくつハ。せうじんのつきねあり

中らるの冊がうららるる也。あつてさるる鏡
あり。さうすお妓役者。人形はうひのこひ入。

そゆくの仕方あつていた。くげんくへは
らるる也。うららるるはつれぬ。さうさうあり

が二階のくへ。かきまが榻の下の仕方。そ人

ともりのいさきさうして。かんくへあり。海向
に糸をさかきさうする。佐さの妙く

九段目

得たぐで飛で出首養生女のみえ

おれらの
おれらの

ある人の子。は養生といへるぞや。おれのみえ
る。おれはほれ。おれは倍は。おれは倍は。おれは

かたぐれ。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。

おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。

小信くこの
と信のより

みるむおまじかしく響つる仲よりははる用い

教うむかひなきがらもいしはるあはれぬやうに

そくきよのまじり

なむに非を奪ふにんともあたるしつ子場多
如ゆけ所のなきあ妙ちつう一休一日入
くも場あり。たゞゆきをよけはは。おの物
合まる事。結ぶうとありへんけ。解る
とらへばむまぶ。能きの終はぬ又物のつら
おころす。た田々うとるせをはうひ

もき利し。あうけうとるこいああま。びり
くらし。まんとんえあわうい。け弁。ん物
あうとよそめんしんせう。おそい文を那。物
なきあゆ里。おと文み。そあせとつら文にが
じく。すはまはぬよりあま。はらひし。まん物
あへてまらまらるのち。又あいうふしても
るるはああひ。日かよ。おん文を那が
はらひし。か。もちがらむとつらあはれんも。
つら物のねがいらん人ざる。いふあを。そ
あを。そ人。あふうし。文を。あうく

うんぐささるもあざし。そらるのよお。己が
はぐひし人形めい。おーもちがふまうど
りねども。我後わがあといおさうかし。せしとあふそあるえ
そねふはきそを船一あり。ひらせ。妹
岩月山のねえの村。己が父の文を。ふらせ
乃人形をはぐひし。入いり麻の印しるし敷しきて。
あとのけよ。あげたか段だんううて。孫まごるすあり。
志しづくしてあきあぐり。海うみあなみ津つ子こあうて。
水みづをの香かんと。ひしや。よよととらる。いいちち。
おおのの下したよう。性ちやうののちちは。はしはしし出いるる。

かゝるた。飛とびあさりてあう。ここるる人ひと。己おの物もの
つつ同どうははああんんととををわわかかてて感かんどどらら。ああのの日ひ
父ちち文ぶんをを弟あにのの病いひををいいふふららてて。ここのの父ちちううははり
部ぶしししてして。ああららせせつつひひららよよ。ここののおお
みみをを己おのははるるぎぎりり。己おの物ものりりつつららよよひひををややらら。
ああののおおののままんんももるる。我わがふふししよよままひ
そそののおおをを父ちちののししららにによよ。ああららるる日ひ父ちち文ぶんをを
己おの物もの中ちゆうななぎぎ。救すくううままががりりてて。サさををみみたたくく
幸まきやや。己おのががふふららせせととははららめめををかかてて。ややがが
ああののやや。己おのとと中ちゆう孫まごままののおおやや。ふふららせせ

の人形よく我が身と。はらひてねど。
 そろりの公りち。ちががゆん子。ん物んとく
 うせ。骨ね振あり。そのゆんハ。まが
 はらふやうせハ。いさぶ振はらう。ねの出
 ざる。あま。なうう。ねの出るし。いふ。合点
 かつ。い。はらふ公りちハ。他の念なく。
 水も。ちのあそ。天ん。あり。あそ。わく。
 せん。さね。よ。出。振。あ。こ。る。時。は。い。ね
 乃。せ。う。ハ。殊。う。あ。ひ。ひ。よ。う。さ。る。
 半。ゆ。び。う。り。し。て。ね。の。体。を。用。立。平

はん。は。大。か。る。と。よ。の。て。ら。り。と。と。服。さ。る。ん。
 振。あ。う。う。さ。あ。あ。う。て。ん。物。の。同。ま。あ。は。り。の
 ち。あ。ら。う。さ。る。方。ハ。あ。る。を。や。ね。ね。の。出。る。事
 ね。あ。る。ゆ。ん。人。形。ハ。か。は。ら。ひ。て。く
 ち。う。ひ。も。公。り。振。う。て。た。ね。子。よ。ん。自
 ね。人。形。の。ん。松。子。よ。ん。し。い。な。と。あ。り
 ね。お。の。ん。所。あ。り。い。り。ね。を。い。は。あ。り
 我。ね。ま。よ。り。い。う。ん。ん。ち。の。あ。く。い。て
 は。ら。ひ。し。よ。え。い。て。ん。物。の。あ。る。様。を
 中。う。り。し。今。う。さ。の。さ。あ。せ。と。つ。あ。も。は

ござるま。出づるもとを全敷し
 (はし) 射ハ自他一人形の内を
 さまる。体よりくして。そらく思ふ物へ
 かし。交わりて我はけよまかせし。
 そらるのつらふまかせし。公持のおまほせ
 みよりあしきまの。あ。のこごひ
 あまのたしこしきまよ。

力は本流と
 さまるま
 つけり。種じりて。めをせむ。花はめて
 のわむ。あまはれは。かき。

或人のよふな。花はた。うんあひ。かき。ま。者
 あり。あまを。肌をも。あま。そのま。人の。物
 け。せむ。私のお。ま。あ。一。命。と。ま。ま
 淋。子。思。ふ。ま。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 不。い。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 我子のたま。あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 ね。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 せ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま
 夕。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま

昨恵と付りしせし武士のまゝに死せし
さへ一後悔し。且ゆくのゆが津津たる
感。そのまゝとありひや。そのの遍て
の家にけまよ及ぶ。まんがのせし
らびるるろま。何れも。又ある。そのま
人の血を金とせし。ゆゑも。死にた
切城。各とげ。いゝゆと。を。交。交。死
さる。ハ。オ。オ。り。子。印。さ。る。志。一。ま。ま。の
せ。余。も。ア。ア。ア。子。敵。り。よ。月。で。常。に
く。一。る。よ。武。の。ま。り。て。ハ。ア。ア。あ。ら。む。は

湯子とて。ハ。せ。の。突。た。り。波。景。と。津。津。を
な。ら。む。と。せ。と。限。も。彼。れ。き。ハ。あ。ら。む。の
一。ま。ま。と。お。り。あ。ら。む。

十段目

とらぬま
とらぬま

我々の出ぬ心なる。そのまゝに。そのまゝ

捕らぬ。動ぬ。なる。そのまゝに。そのまゝ

或人の。中。の。物。の。た。ま。ま。ま。も。う。や。り。も
公。と。お。さ。さ。あ。ら。む。あ。は。け。り。秘。し。み。秘。し。み。あ

一 大車はふるあ。義平が公を修きんとす。
捕まの斗略あまう。撻紘なる後向え。
之よりお流りよ。は眼のつらまいてききる。
そのなり。んせきおねまハ皮肉の間不
あり。くり。たへんハ悪人の顔ハ赤く。
悪人の名ハ白。一。奇。身。妓。後。者。さ。
おねとひき。赤ふとさうち。さあをさつ。
その。おらの皮なり。さうぬもまの
その。討身。おねハ大将の公持。ハ。ハ
ハ。師のころりめちめて。其の。後。く。と。勤。ハ

引。おねの肉らう。さ。ぬ。び。く。そ。お。ま。
う。よ。も。あ。ま。を。ま。を。悪。子。あ。こ。う。も。あ。も
あ。ま。ま。か。角。皮。肉。の。間。み。て。ね。ま。ま。
た。ま。ま。る。お。が。時。ら。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。の。後。向。あ。り。は。お。の。捕。ま。ハ。お。
お。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
後。ま。人。形。は。く。び。も。ま。ま。ま。ま。の。後。ま。ハ。
ま。ま。ま。の。後。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

されまゝたあつなりと。始終あまると
 けきと。既とさげさのさげさるるは
 包かめてさるるもあはれむ。及を狂
 えさのけきあはれむ。そのさげさをいへて
 やと。このやうふさきさかたりし
 るら。その文句のいふまゝなるはし

十一段目

枕の考

吾亦強弱とせし弱強強とせむと云は
 吾亦に在るが他へ無法なり

昨更ハ大なり。倍ほのむとてそ
 ぐ。ハ亦亦弱の弱強とせむと云は
 けほのむとて。吾亦に在るが他へ無法なり
 呼はるる理ハ中後とて文
 と。然り。故にけり。語めてさるるは
 倍々。近むつたまの。見る。多し。ハ。さ。が。り
 ち。は。の。き。ひ。あ。て。文。句。ハ。あ。ま。の。句
 和漢の文のひきこ。なる。服あま。が。き。て
 只。そ。要。さ。る。あ。の。こ。と。あ。つ。さ。る。れ。ば。さ。り
 了。は。さ。り。も。さ。り。也。と。云。へ。く。さ。り。れ。り

是行田流の伝方わつ。・近松の流ハ
 一命の内。控まのよとと伝く子任べて。
 ちゅう子ハ。物子彼をおりひでせ。是
 をこうがハ。切およひりし。大子
 物の淋むるをせつ。月物の目とそ
 ころらう。怒年初より中流へ
 入るふ傳ももあるへら。果ハい
 ちやと。その流と待よりあやう
 ころらのあう。竹田の流ハ。知えよう。
 物の淋むるうとちり人合。合をうと

おり人ハ淋むるをせつ。物子彼を
 伝く。近松の流ハ。一命の内。控
 まのよとと伝く子任べて。ちゅう
 子ハ。物子彼をおりひでせ。是
 をこうがハ。切およひりし。大子
 物の淋むるをせつ。月物の目とそ
 ころらう。怒年初より中流へ
 入るふ傳ももあるへら。果ハい
 ちやと。その流と待よりあやう
 ころらのあう。竹田の流ハ。知えよう。
 物の淋むるうとちり人合。合をうと

うちよ。さ。は。し。る。う。あ。て。し。あ。る。中。の。の。め。の
七。月。月。ま。さ。し。た。お。の。放。地。の。あ。い。ん。を。さ。く。
ほ。切。子。九。を。ま。し。と。う。ま。し。と。な。ん。を。解。し。
又。九。月。月。さ。し。の。放。地。の。俵。と。な。ま。し。
紙。屋。町。の。の。め。の。あ。い。ん。又。な。ん。を。さ。く。
文。句。大。き。を。か。し。へ。り。あ。い。ん。を。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。

お。く。ま。よ。の。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。
あ。い。ん。を。ま。し。と。な。ま。し。あ。い。ん。を。ま。し。

丸屋文右工門
越前屋長次郎
川村儀右工門

書賈

49708
497

抄

北越

在
上

楊

義

年

任

一

子